

## 良識のない「あいちトリエンターレ」

### 表現の不自由展・その後・・・の後日談

あの程度の県知事を選んだ愛知県民の民度の低さ。東京もそうだが、千葉県などどこもそうだと行ってしまえば、日本国民の民度の低さが顕著になる。少し TV で顔が知られていると、選挙に合格する。その人間の持っている能力や、その人間性、人格など、まったく考えていない。

先日来、驚いているのが、「言論の自由」とかで、「何を言ったり、書いたりしてもいい」と、いい年齢をした県知事がいた、ということである。憲法に「言論の自由」が書いてあるのに、なぜ名古屋市長の河村などが口をだすか！とでも言いたい気分で、いわば、サル山のボスが、好き勝手なことをしているような状態になっている。・・・憲法には、言論の自由とともに、おのずから成る制限が、「常識の範囲」で存在する、と書いてあるのだが、狂った目には見えなくなっている。・・・しかし、あれは名古屋市主催になっているのだから、河村市長の主張が正しい。名古屋市民の税金を使っているのだから。

そもそもトリエンターレがわからない。そうでのうても忙しいのにいちいち名古屋まで見に行く暇はない。だから、偏向した NHK や朝日新聞その他からの伝聞にすぎない。

- 1、昭和天皇の写真（・・・御真影とは書かないよ！）をバーナーで焼いて、残りを足蹴にかける。安倍首相が気に食わないときによくやる例の集団ヒステリー。
- 2、いわゆる韓国が世界に喧伝している慰安婦像と称するもの。ただし、歴史的史実かどうか、についてはふれたことがない。つまり、本物かどうか、検証されたことがない。
- 3、髑髏が昭和天皇を見つめている。意味不明。
- 4、明日インパールに従軍看護婦として出発します。・・・こういうのを嘘という。インパール作戦は、牟田口廉也が、強引にインドを独立させるため、イギリス軍に向かって侵攻したもので、武器も食物もなく、ましてや女性が同行できるほど気楽な山道ではない。3つの師団長が、無茶なことをする、と牟田口の命令に背き、自軍の兵を救うために撤退したものである。それでも、白骨街道と後に呼ばれるほど、多くの兵が飢え死にしたり、苛酷な戦

線である。女子供の行ける所ではない。．．．．．ここだけでも嘘だらけだとわかる。

5、以下 20 種類ほど、1～3 をみれば、反日・親韓国であることがわかるような事象が展示されている、という。

これらのことを朝日新聞や NHK が報道するらしいが、自分たちには都合の悪いことは、当然ながら論点をずらす。卑怯という。

で、これらのこと（当然もっとたくさんありますが、短く言えば反日、反天皇制、人権侵害、しかも卑劣なことに、反論できない、あるいはしない人———皇室・天皇———を対象としている。）を「芸術と考えている作者の脳みその構造を調べてみたい。」さらに、これに賛成している県知事の良識もたしかめてみたい、と思う。

3 日目にテロをおこすぞ！とおどされ、あわてて展示を中止したが、結局なにもなさそうなので、おっかなびっくりで、反応をたしかめながら再展示した。

内容を見れば、何も日本ですることではなく、韓国でしたらいいんじゃないか。

たまたま、TV で作者らしき人物が出演していて、一生懸命説明して、日本はまだ韓国に謝罪していない、などと主張し、謝罪しているという人が何か言えば、「あなたが知らないだけです！」と強弁する。まともな人は沈黙する。論破されたのではなく、ただ単にアホらしいから黙っているだけなのに。．．．．その後いろいろなやりとりがでてくるのだが、まったく基本的な知識に欠けていることが露呈したとき、「これはもっと勉強してもらわないと．．．」と冷笑されても、バカにされていることに気付かない。嗤ってしまった。

知事も同じ程度の知能だということがわかる。火吹き達磨のような顔で一生懸命話してくれるのだが、何が言いたいのかよくわからない。

その後、新型コロナ肺炎の蔓延の際、愛知県は、東京圏や大阪圏からはずされて一般の県と同様の扱いになった。中京地区の中心地をはずすのか、といっても誰も相手にしない。

こんな勝手な知事もいないだろう。国の要請を拒否したあとで、県の主張を聞いてくれない、と怒っても誰も耳を傾けない。中京の中心といっても、田舎の県知事が何ゆうとんねん、と担当者は

思っている。

もう 60 年以上まえのこと。檜山節考の作者、深沢七郎が、雑誌に「皇太子の首がコロコロところがって・・・という夢をみた」と書いた。政治とか思想がどうの、ということさえなかった母親が、「いくら何ゆうてもええ、とゆうても、こういうひどいことを書いたらアカン」と言った。そのとおりで、皇太子は、不愉快になっただろうが（実際には読んでもいないだろうが）、右翼が出版社の社長を襲撃したところ、深沢は、次はオレの番か、と姿をくらし、あちこち転々として逃げ回り、居所が不明になった時期があった。冗談ですまされないバカなことを書いたことから発生しているから、いまさらでてこられない。最期は、20 年近く心筋症からの心臓の能力がもたないことから一か所に住むことになったが、無駄な時間というか人生を送ったものである。これを因果応報と表現する。

6 月に入って、美容整形外科の高須克哉氏が、大村秀章愛知県知事の解職請求運動（リコール）を始めた。河村名古屋市長は、「名古屋市民や日本国民の税金や名誉を守るために応援する」といい、コロナ対策で一気に人気が出た大阪の吉村洋文知事も「取り組みには賛成だ。応援する」と述べ、「公金を使って開催したことに強い違和感がある」と強調した、と産経新聞に掲載された。